

もっと知ろう!

もっと使おう!

くまもとの木

～くまもと県産木材アドバイザーは消費者の強い味方～

熊本は、面積の約60%を森林が占める緑豊かな県。そうした森林の多くは、戦後から高度成長期にかけての木材需要の高まりを受けて植林されたスギやヒノキを中心とした人工林で、樹齢40年以上の成熟期を迎えています。森は、成熟した木々を木材として活用し、そこに新たに植林するというサイクルによって健全に保たれます。そんな県産木材の有効活用を消費者に分かりやすくアドバイスしてくれる「くまもと県産木材アドバイザー」をご存じですか？

# 見直そう、県産木材と木の家の特性と魅力

## 一 県産木材を活用して、熊本の森と暮らしを豊かに

木材は軽くて丈夫なうえに加工がしやすく、優れた調湿作用や衝撃緩衝作用を持つという特性があります。最近では、健康や心理面への好影響も注目されています。このように、木は人々の暮らしに深く関わり、豊かにしてきました。

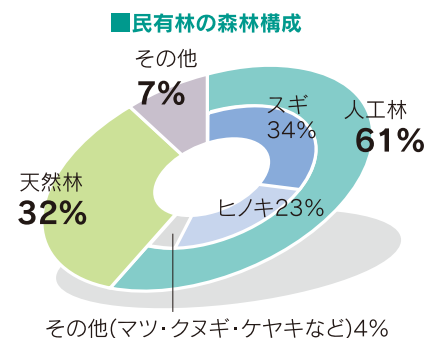
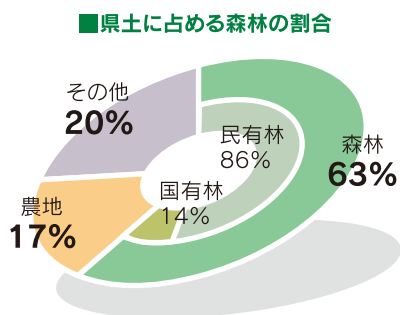
また、木材の供給源となる森林は、水源かん養や地球温暖化防止、土砂流出防止など、さまざまな公益的機能を有しています。こうした機能を維持するには、森林を健全な状態に保つ必要がありますが、近年、林業に関わる人の高齢化や担い手不足、さ

らに木材価格の長期低迷による収入減などの理由で、手入れの行き届かない森林が増えていきます。特に、県内の民有林のおよそ60%に及ぶ人工林は、定期的な間引くことで木同士の間隔が保たれ、日光が地表まで届いて草や低木が育ち、木の成長が促されます。この「間伐」と呼ばれる作業が行われていない森林は、木材としての利用価値が低ければ、土壌の保水能力も低下し、公益的機能の低下を招きます。

地域の活性化と環境保全に大きな役割を果たす森林資源が、その機能を維持し続けるには、「植

える」「育てる」「使う」というサイクルを、うまく循環させることが大切です。県では公共施設に積極的に木材を使用するなど、県産木材の需要拡大に努めています。

そうした取り組みを、さらに広がりのあるものにするために始まったのが、「くまもと県産木材アドバイザー」の養成です。家づくりを検討している皆さんにとつて頼りになる存在であり、熊本の森林と環境を守り林業を活性化させる一翼を担っている県産木材アドバイザーを、ぜひ活用してください。



※熊本県林業統計要覧(平成23年度版)

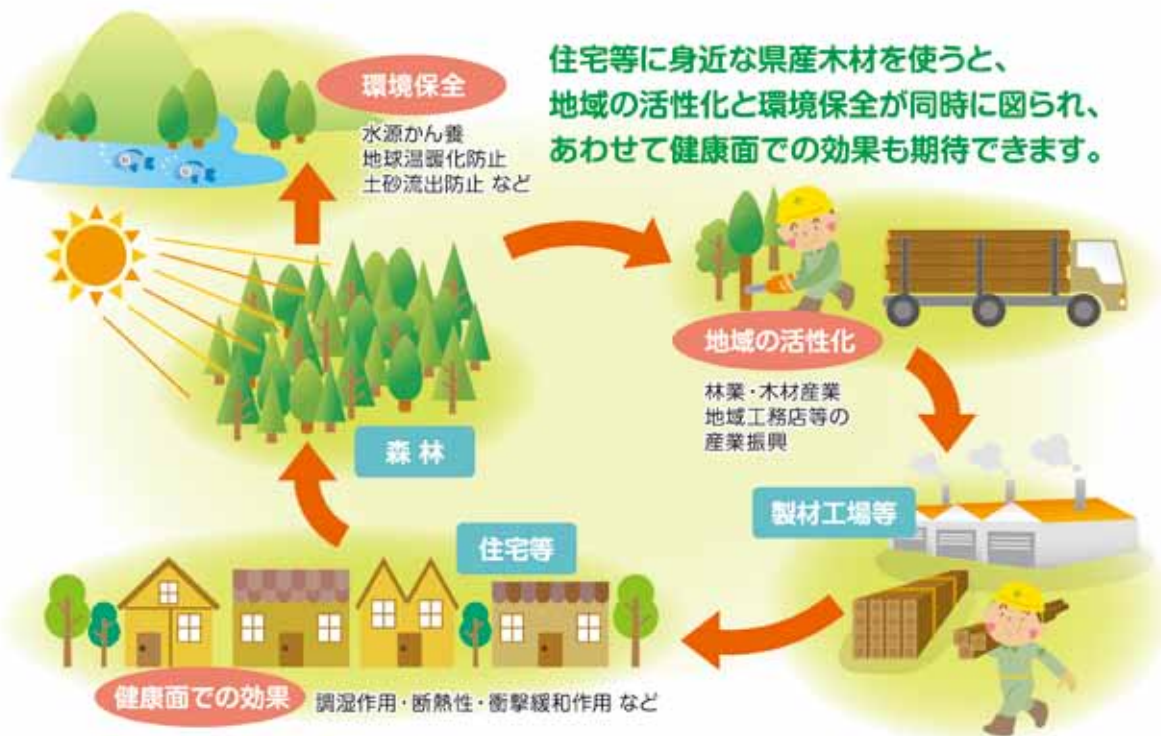
### 都道府県別 スギ生産量ベスト5

1	宮崎県	1,404千㎡
2	秋田県	850千㎡
3	大分県	664千㎡
4	<b>熊本県</b>	<b>644千㎡</b>
5	青森県	509千㎡

### 都道府県別 ヒノキ生産量ベスト5

1	岡山県	197千㎡
2	<b>熊本県</b>	<b>196千㎡</b>
3	高知県	174千㎡
4	愛媛県	160千㎡
5	三重県	131千㎡

※平成24年木材統計(農林水産省)より引用



熊本の森の多くを占める人工林は、人の手を入れて適切に管理しなければ、その機能が十分に発揮されません。森を元気にするためにも、県産木材の有効活用が不可欠です。

## 県産木材の品質向上で地産地消の拡大を

農産物から広まった「地産地消」

の考え方。木材でもその意識は徐々に高まっており、家を建てる時に県産木材の使用を希望する施主も増えていきます。地元木材を活用することが健全な森林を保全し、二酸化炭素の吸収・固定、水源かん養といった環境面での機能維持にもつながるだけでなく、林業や木材産業などの地域経済の活性化も促します。また、木材の地産地消の拡大は、輸送に必要なガソリンなどの化石燃料が排出する二酸化炭素量が抑制され、地球温暖化防止につながるといふ大きな

メリットもあります。

こうした動きを加速させ利用拡大を促進するには、県産木材の品質向上が欠かせません。その一つが、木材の寸法安定性です。熊本県林業研究指導所林産加工部長の池田元吉さんは、「住宅に使用する木材の寸法を安定させるには、伐採した木を長期間しっかりと乾燥させることが大切。県産木材の品質向上のため、県内の木材加工業者にもそのことを周知しています」と話します。また、指導所では県産木材の使用用途を広げる情報発信にも努めています。「これまで横架

材(梁)には、たわみの少ない外国産材が多用されてきましたが、実験によって十分乾燥させた県産のスギ平角材でも性能面で遜色ないことが分かっています。そうしたデータを、県内の設計士や工務店に知ってもらい、利用拡大につながれば」と池田さん。単に利用拡大を図るだけでなく、品質向上を通じて県産木材の信頼度を高める取り組みは、消費者にとって快適性と安全・安心を兼ね備えた住まいづくりを実現する後押しになるはずだ。



定期的な間伐を行うことで健全な森が保たれ、公益的機能が維持されるだけでなく、木材の品質も向上し、県産木材の付加価値を高めることにもつながります。

もっと知ろう！もっと使おう！くまもとの木



## 「木育」一木に触れ・木を知り・木を使うー

### 木を素材にしたものづくりから 木の良さや役割を学ぶ場

多くの人に、木の良さや森の大切さを体感してもらおう「木育(もくいく)」が、全国各地で展開されています。この木育が最も盛んな地域は熊本県です。「くまもものづくりフェア」をはじめ、木を素材にしたものづくり教室には、年間1万人近くの参加があります。ものづくりフェアでは、県産のスギやヒノキを材料にした円形木琴、くまモンストラップなど、12〜14種類のものづくりを体験することができます。その中で木の肌ざわりや香りの良さ、木目の美しさを感じてもらっています。来場者は家族連れが多く、木を使ったものづくりを通じて親子はもとより、お孫さんと祖父母の方々の交流が深まっています。

ものづくりだけでなく、子ども達に木の不思議や魅力、地元



昨夏、熊本大学主催の「くまもものづくりフェア」の一環として、熊本市国際交流会館で行われた「ミニ木育講座」の様子。親子で楽しく、木について学べる場として好評を博しました。

の木材を使うことの意義を学ぶ「ミニ木育講座」も実施しています。例えば、木は光合成をすることで二酸化炭素を蓄積することができます、その重さの約半分は炭素の重さです。また、一度蓄えられた炭素が空気中に戻ることはなく、ずっと木の中にとどまります。私たちが木を燃やしたり腐らせたリしない限り、永久に炭素を保持してくれるのです。

近年、地球温暖化が問題になっていますが、原因となる空気中の二酸化炭素を少なくするためには、木を植え、大きく育て、伐採(収穫)し、そこにまた新しい苗を植える。そして、伐採した木から作られた木製品・木造住宅は、長く大事に使うことが大切であると伝える活動も木育です。



熊本大学教育学部  
田口浩継 教授(博士・公共政策学)

小・中学生を対象とした「ものづくり教室」「情報教育」の意義や指導法などを研究する傍ら、森林保護・環境教育の一環として、木を用いた「木育」を実施。各地への出前授業や講演も精力的に取り組んでいます。

# 県産木材の消費拡大の役割を担う 「くまもとの木のエキスパート」

県産木材や木のある暮らしの良さを広く県民に知ってもらい、木材の地産地消を拡大するために設けられた「くまもと県産木材アドバイザー」の養成課程や活動内容などを紹介します。

## 「くまもと県産木材アドバイザー」 どんなことをするの？

近年、地球温暖化への懸念などから環境への関心が高まり、県内でも森林保全や県産木材の積極的な利用に注目が集まっています。それを受け、県では木造建築だけでなく、林業や木材流通加工、県産木材の特性や利用意義など、幅広い知識を持った人材の養成制度を設け、県産木

材の消費拡大を図っています。

「くまもと県産木材アドバイザー」の対象となるのは、県内に居住もしくは県内の事業所に属して、住宅等の設計・施工や木材の加工・流通に従事している方です。希望者は、3日間の研修を経てアドバイザーとして認定されます（有効期限は3年）。

認定を受けると、住宅建築をはじめ、公共施設への県産木材利用のアドバイスや提案を行うだけでなく、地産地消の拡大や森林の環境保全という重要な役割も担います。

県内の人工林の多くが成熟期を迎えている中、健全な森林の機能維持のためにも地産地消による消費拡大が不可欠です。その一翼を担う「くまもと県産木材アドバイザー」の今後の活動が注目されます。

こんなときは  
「くまもと県産木材  
アドバイザー」に  
相談を！

「くまもと県産木材アドバイザー」と一口に言っても、消費者にとっては「どんなときに相談すればいいのか分からない」ということも……。例えば、こんなときは気軽にご相談ください。

### 家を建てるのに県産木材を使いたい

熊本県林業振興課HPでアドバイザーの在籍するメーカーや工務店、設計事務所を調べ相談すると、県産木材を活かした家づくりの提案をしてくれます。

### 県産木材についての知識をもっと深めたい

認定を受けたアドバイザーは、県産木材についての幅広い知識を持っているので、熊本県林業振興課HPのアドバイザー一覧を参考に、何でもお尋ねください。

## 3日間の研修で県産木材の知識を習得

「くまもと県産木材アドバイザー」の認定を受けるには、県主催の3日間の研修を受ける必要があります。研修では座学だけでなく、実際の木材加工現場の見学などを通じて県産木材に関する知識を身に付け、それをもとに県産木材を使った家づくりを検討している方や、利用に興味を持っている方へのアドバイスなどを行います。



写真は平成25年度の  
県産木材アドバイザー  
養成研修の様子



### 研修ではこんなことを学んでいます！

#### 第1日目

「熊本県の森林・林業・木材産業の現状と課題」  
「建築資材としての県産木材の特性」  
「県産木材を活用した家づくりの取り組み」ほか

#### 第2日目

＜現地研修＞

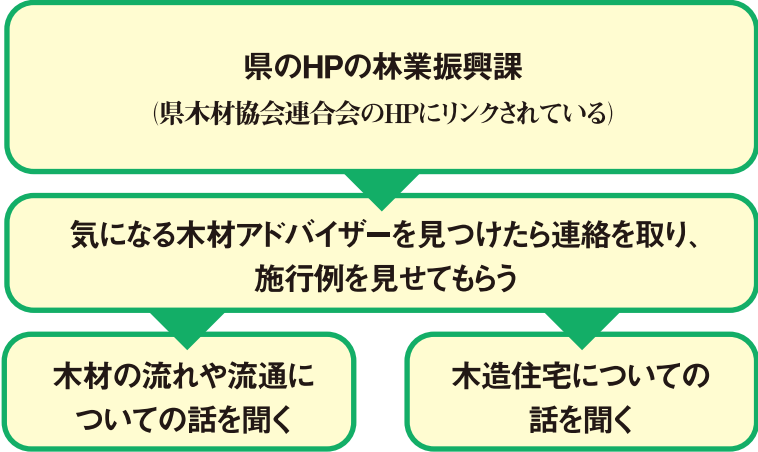
- 木材市場およびプレカット工場の取り組み状況および現地見学
- 新栄合板工場の取り組み状況および工場見学

#### 第3日目

「木育講座～木の不思議、木の魅力の伝え方～」

※上記は平成25年度「くまもと県産木材アドバイザー」養成研修の内容です

加工・流通分野のアドバイザーに話を聞きたい人は



県産木材アドバイザーの  
**加工・流通分野**  
活動事例報告

木材の加工・流通分野(製材業者、木材業者)での活動事例を紹介します。熊本県では、「公共建築物等木材利用促進法」の施行以降、県・市町村で基本方針を策定し、公共施設などへの県産木材の利用促進を図っており、アドバイザーも重要な役割を果たしています。

間伐材の有効活用につながる集成材を生産  
子どもたちに木の風合い・温もりに触れてほしい

熊本市立 力合西小学校



かい ゆきひこ  
**甲斐幸彦**  
日新木材工業有限公司  
☎090-3606-5372  
熊本市中央区九品寺3-9-35

当社では、森林保全のための間伐によって生じた小径木の有効活用手段として、県産のスギやヒノキの間伐材を細かく切って接着して作る台形集成材の需要拡大を図っています。昨年完成した力合西小学校でも、下駄箱や図書館の本棚などの造作物に使われています。台形集成材には、必要に応じて長さ・厚み・幅を変えられるメリットがあり、幅広い用途に対応できるのが特長です。

近年、学校の改築・新築で木を使うケースが増えているので、子どもたちには県産木材の風合いや温かみに直接触れてもらい、良さを実感してもらえると嬉しいですね。

国産材を活用した技術開発「KS構法」で  
地域工務店の元気づくりに貢献したい

木造で大空間を可能にする「KS構法」



さとう だいはち  
**佐藤大八**  
株式会社 喜太郎  
☎096-274-3339  
上益城郡嘉島町鯨2803-4(嘉島事務所2F)

当社の理念は、国産材を活用した技術開発を通じて、国産材の普及拡大(=山の元気)に貢献することです。例えば、店舗・倉庫など木造では不可能とされている柱無しの大スパンを可能にする木造トラスの開発や、構造躯体における木材の連結部の断面欠損(不安)を緩和する国産材の金物工法「KS構法」など、日夜、木構造に関する技術開発にチャレンジしています。

また、木材の良さをもっと理解しているのは地域の工務店であるとの考えから、「KS構法」採用の地域工務店と共に「KS倶楽部」を発足。「時代を超えて住み続けられる家づくり」や「住宅の資産価値向上のために」等のテーマで、定期的な勉強会を開催しています。

アドバイザーに木造住宅建築を頼みたい人は

「くまもと県産木材アドバイザー」の熊本県HPで  
気になるアドバイザーを探す

アドバイザーのHPなどで施行事例を見る

実際にアドバイザーに会うなどして意見を聞く

アドバイザー主催の完成見学会などで足を運ぶ

アドバイザーに設計や建築を依頼する

県産木材アドバイザーの

## 施工分野 活動事例報告

県産木材を活用した住まいづくりを進めている  
アドバイザー(設計士、工務店、住宅メーカー等)の  
活動事例を紹介します。熊本の気候風土に適した  
県産木材を積極的に活用することで、快適な  
住まいを実現することができます。

構造を“見せる”造りにすることで  
県産木材の持つ良さを実感してもらいたい



ふじもと すみえ  
藤本純恵

藤本和想建築  
☎096-279-1023  
阿蘇郡西原村大字小森809-20

当社では以前から構造材・仕上げ材には、100%  
県産木材を使用しています。また、県産木材を使  
った家づくりに興味をお持ちの方には、実際に建  
築中の現場で構造を見ていただき、木の強さ・美しさ・  
香りなどを実感してもらいます。加えて、3年ほど  
前から業種を超えて集まった有志で県産木材を使  
ったものづくり教室の開催などの木育活動を展開し、  
県産木材の良さや森林の仕組みを知りきっかけづ  
くりに取り組んでいます。



S様邸は、手刻みの登り梁を合掌組みにし、構造材も化粧材として“見せる構造”にして  
います。さらに、仕上げ材や作り付けの家具やテーブルにも県産木材を使用しています。

構造材、床・壁・天井もすべて県産木材  
「自然と人が共棲・共栄できる」家づくりを



たくち ふとし  
田口太

有限会社 田口技建  
☎0965-52-7030  
八代市鏡町鏡1159-32

当社では、川上(山・生産者)→川中(設計・施工者)→川下(消費者)のつな  
がりを大切にし、施主様に「家は買うものではなく共につくるもの」だとい  
うことを、完成見学会などを開いて理解してもらおうよう心掛けています。M  
様邸の特長は、「自然と人が共棲・共栄できる」の家づくり。先人の知恵や技  
術を随所に活かしています。また、県産木材の活用が「環境負荷の軽減」に  
つながることに賛同いただき、構造材はもとよりキッチンや照明にいたる  
まで、すべて県産木材を使用しました。M様には、木の家の心地よさを実感  
していただいているようです。これからも、家づくりを通じて皆様に山のこ  
とや、家を造る大工の技術についてお知らせしていきたいと思ひます。

## 県産木材アドバイザーの助言が決め手 暮らしの中で自然の持つ力を再認識

設計をお願いした建築士の方が県産木材アドバイザーで、住宅建築において「木材を循環させていくことが環境保全につながる」「林業や伝統的な日本建築の担い手不足に歯止めをかけることができる」「熊本の気候風土に合った家を建てることができる」などのメリットを教えてください、県産木材を使うことを決めました。

住宅一棟で考えれば小さなものかもしれませんが、地産地消の家づくりをすることで、「植える」「育てる」「使う」という木のサイクルと木造建築が見直され、住宅を「買う」ものではなく、「建てる」ものと考えられる人が増えてくれればいいと思います。また、県が行っている県産木材と畳表のプレセント企画も、経済的な負担軽減になり、(県産木材を使った

家づくりの)決め手の一つになりました。

実際に暮らしてみているのは、木の調湿機能のお陰で夏場のじめじめ感は少なく快適に過ごせること、そのせいか室内干しでも洗濯物が良く乾きます。また、時間の経過と共に少しずつ変化し味深い深くなっていく木の風合いも心を落ち着かせてくれます。さらに、伝統的な木組みの技法を使った家では、職人の技や造形美を堪能することもできます。

県産木材を使って家を建てたことで、あらためて自然の持つさまざまな力を実感することができました。普段の生活の中で、そうした自然の恵みについて子どもたちに伝えてあげられるのも、木の家だからこそできることだと思います。

## 県産木材を 使って良かった! ～施主様の声～

県産木材を使った家を建てた施主様に、県産木材を使おうと思ったきっかけや住み心地などについて聞きました。これから家づくりを考えている皆さんは、ぜひ参考にしてみてください。



M様(八代市在住) ご夫婦+子ども2人



### ホームページのご案内

過去に認定されたアドバイザーを含め、すべてのアドバイザーが紹介されている県のホームページ。県産木材を使った家づくりに興味のある方は、ぜひ覗いてみてくださいね!



ホームページアドレス

<http://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/78/adobaiza.html>

くまもと県産木材アドバイザー

検索

くまもとの家は、くまもとの木を  
使ってつくるのがいいモン!



くまもとサプライズキャラクター「くまモン」  
©2010熊本県くまモン

### お問い合わせ

熊本県農林水産部森林局林業振興課  
☎096-333-2448  
〒862-8570 熊本中央区水前寺6丁目18番1号